

題字の意義

—中国におけるモニュメントの分析から—

高山陽子

第1章 問題の所在

碑のない観光地はない。こういっても過言ではないほど、ほとんどの観光地には碑（モニュメント）が存在する。何らかの歴史的事件の発生した地点や著名な建造物、風光明媚な景観地などには、その場所の由来が書かれたモニュメントが残されている。勝利や英雄を讃える勝利記念碑や英雄の像や碑、戦死者や災害・疫病などの被害者を慰霊する碑や塔、文人の営みを記憶する像やプレートなど、モニュメントという言葉でくくられる建造物には枚挙に暇がない。現在、観光客はこうした様々なモニュメントの前で写真撮影し、訪問の記念とする。著名人が記念撮影した場合、その写真や行為が、その場所のモニュメンタル性に彩りを添える。

モニュメントは、何かを記念するために建てられたものであるが、特に政治的な意味が織り込まれる。ただし、その意味は固定化されたものではなく、建立から数十年あるいは数百年、数千年の歳月が流れると、次第に変化する。例えば、古代エジプトのオベリスクは、ファラオの権威を示すものとして神殿や王墓の前に一對をなして建てられていたが、18世紀以降、戦利品のシンボルとして欧米各地の広場や公園に建てられるようになった。ファラオのシンボルは欧米の勝利のシンボルとなり、やがては景観の一部となる。

景観に溶け込んだモニュメントは、政治的なメッセージをほとんど発信しなくなり、朽ち果てて消えてゆくものもある。良好に保存されていても、単に表札の意味しか持たないことが多い。記念撮影にモニュメントが含まれるのは、モニュメントが表札の役割を果たしているためであるといえる。写真

1は、中国湖南省の張家界で記念撮影する人々の写真である。この写真を見れば一目で、写真に写っている人物が張家界を訪れたことがわかる。撮影場所として、張家界という活字のプレートではなく碑が選択されるのは、江沢民という一政治家による題字という個別性にある。江沢民が張家界と揮毫した碑は、この場所にしかないことを観光客は知っているから、この碑を記念撮影の場所として選ぶのである。

逆に、除去される行為が新しいメッセージを生み出すこともある。2003年4月9日、バグダッドで倒されたフセイン像の映像は、フセイン体制崩壊というメッセージを繰り返し流し続けた。世界中でどれくらいのレーニン像やスターリン像、マルクス像が倒されたかを知る人はほとんどいないだろう。

景観化したモニュメントが意味を吹き返す瞬間がある。それは、10周年や30周年、100周年などの記念に行われる式典の日である。式典の準備期間にモニュメントは修復され、新しい装飾が施されることもある。開幕式に参列する人々は、新しいモニュメントとそこで行われる式典を見て、出来事の発生、最初の顕彰行為、リニューアルに伴う顕彰行為という三つの点が一筋の線でつながっていることを実感する。そして、個人的な出来事の記憶は、

写真1 張家界



国家の正統な歴史と相互補完的な関係を築き上げる。

このようにモニュメントは、イデオロギーを発信する装置であるが、芸術性を完全に放棄したわけではない。古代エジプトのオベリスクは、ファラオの権威の象徴からエジプト遠征の記憶へと移り、この記憶が薄れるにつれて、方尖塔の造形美が見出されていった。例えば、イギリス式庭園に建てられたオベリスクは、ランドマークの一つに過ぎない。このように政治性と芸術性の解釈は、状況によって異なる。したがって、モニュメントは、メッセージという政治性と形態という芸術性の相関関係から分析する必要がある。

本稿では、モニュメントの政治性と芸術性の関係を中国の事例から検討する¹⁾。古くから書という芸術を重んじてきた中国では、モニュメントといえば、碑（文字）が大部分を占めていた²⁾。20世紀初頭、中国に西洋の建築様式が取り入れられバロック様式のモニュメントが建立されるようになってから、中国のモニュメントは次第に像（造形）によってメッセージを伝え始めた³⁾。また、20世紀半ばには、ソ連から社会主義芸術としてモニュメント建築が導入された。

モニュメント建設は、近代国家にとって権威を示す役割を果たしてきたが、とりわけ社会主義国では政治性と芸術性を兼ね備えた重要な存在であった。その様式は、社会主義リアリズムと呼ばれ、烈士記念碑や記念館という革命犠牲者を慰霊するためのモニュメントが盛んに作られた。書という芸術性と、社会主義という政治性は、中国の近代モニュメントのどのような特徴をもたらしたのだろうか。本稿では、中国の近代モニュメントを研究する上で、どのような視点が可能であるかという方法を模索したい。

第2章 近代国家とモニュメント

第1節 モニュメント研究

モニュメント研究の一つのキーワードは、歴史の記憶化の装置である⁴⁾。近年のモニュメント研究の先駆となったのは、モーリス・アルヴァックスの

『集合的記憶』である⁵⁾。アルヴェックスは、出来事の記憶が個人的なもののように見えても、実は集合的な記憶であることを論証した。集合的な歴史が消え去ったときに、固定化された一つの筋である歴史の叙述が始まると述べている。そして、集合的記憶は空間の枠内で展開するものであり、その空間において記念碑は、思い出を再び見出す手がかりになる。近代都市であっても、何らかのかたちで昔の集団の痕跡を留めているという⁶⁾。

この研究を受けて、ピエール・ノラは、1984年から『記憶の場』の編集に取り掛かった⁷⁾。総勢120名の歴史家を動員したこのプロジェクトは1992年に終了し、以降の各国のナショナリズム研究に大きなインパクトを与えた。ノラは序文で、現代において記憶と歴史の距離が広がっていることを強調している。「太古の昔からあるアイデンティティの絆が断ち切れ、歴史と記憶の一致という自明だった事柄がついに終わった。」⁸⁾ 記憶が過去との連続性という感情であるのに対して、歴史は過去の再現である。歴史の使命は記憶を破壊し抑圧することである。過去の再現に有効なモニュメントや博物館は、武器として保存されるが、その記憶の場の属性は取り除かれてしまうという⁹⁾。

ヨーロッパの都市の道路や広場には、多くの銅像や石像が建つ。これらの多くは、19世紀のモニュメント建設ラッシュ時期に作られたものである。ジューン・ハーグローブは、これまで研究対象となつてこなかったパリの著名人の記念建造物に焦点を当て、フランス革命から第一次世界大戦語までの約100年の間、顕彰行為と顕彰芸術がどのように変遷したかを論じている¹⁰⁾。

パリの大広場には、アンリ4世からルイ15世までのブロンズの大騎馬像が建立され、絶対君主制における礼拝用の聖像の役割を果たしていたが、フランス革命を機にこれらの像は破壊された。この光景を目の当たりにしてきたナポレオンは、パリを改造する際、自身の像を建立することをためらい、コンコルド橋の上に戦士した将軍たちの記念像を作ることを計画した。実際には一体も建立されることなく第一帝政(1804～1814)は崩壊したが、記念

像建立熱はこれ以降も続いていった。そのピークは、第三共和政（1870～1940）に入ってもなくのことであった。この時期、ジャンヌ・ダルク像が好まれて建立されたが、それは、愛国主義を象徴する殉死者であったためである¹¹⁾。

19世紀末のモニュメント・ブーム初期では、リアリティに高い芸術的価値が認められていたため、彫刻家たちは、芸術家としての独自性を表現しつつ、過去の偉人の姿を忠実に再現することに注意を払った。しかし、ブームを過ぎると、顕彰対象は二流の人物となり、芸術性よりも財政面への配慮が優先されるようになった。さらに、記念像は、交通渋滞の原因となっているとして、公共空間を侵略していると批判されるに至り、記念像ブームは終息へと向かっていった。第一次世界大戦は、ブーム終息の決定的な原因となり、戦後の人々にとって記念像はアナクロリズムなものでしかなかったという¹²⁾。

19世紀のモニュメント・ブームの以前と以後では、モニュメントの性格に大きな違いがある。王侯騎馬像などは、王侯という個人を顕彰するために作られたが、戦勝記念碑や軍人の全身像、戦没者慰霊碑などは国家のために尽力した人々を顕彰するために作られた。前者の設立主体が君主一人であるのに対して、後者の設立主体は国家あるいは市民である。そのため、19世紀以降のモニュメントは国民記念碑と呼ばれることある¹³⁾。

ベルリンのフリードリヒ大王像は、19世紀を代表する国民記念碑であると評価されている（写真2）。騎馬像という形態は従来のスタイルを踏襲しているが、フリードリヒ2世個人を顕彰するものではなく、祖国を記念することを意識して作られたものであった¹⁴⁾。19世紀のドイツには、ヘルマン記念碑や戦勝記念碑、ニーダーヴァルト記念碑など大規模なモニュメントが相次いで建立されたが、パリと同様にこのブームは第一次世界大戦をきっかけに終息を迎える。

第一次世界大戦後のヨーロッパで建立されたのは、戦没者の慰霊碑であった。第一次世界大戦は大量の戦死者を生み出し、国家は人々の心を慰める必要に迫られた。戦争は悲惨な結果をもたらしたが、戦争は大義のために不可

写真2 フリードリヒ大王像



欠であったというイデオロギーを示すために、各地で、戦没者の慰霊碑が建立された。1920年に作られたロンドンのホワイトホール戦没者記念碑（セナタフ）は、その典型である。セナタフは、宗教的な装飾を排除した簡素なデザインで、戦没者の誠実さを示すものとして多くの人々に支持された¹⁵⁾。

簡素なデザインは、20世紀の慰霊碑における一つの主流をなす¹⁶⁾。簡素なデザインの代表的なモニュメントは、1982年、ワシントンで除幕式が行われたベトナム戦没者記念碑である。58132名の戦死者の名前が刻まれた御影石の二つの壁がV字形に佇立するこのデザインは、地表高くそびえる白い建造物という従来のアメリカのモニュメントと対照的であった。これは、中国系アメリカ人の大学生、マヤ・リンによるものであり、中国系であり女性であるという彼女の属性とデザインの抽象性に対して、建設前から多くの批判にさらされていた。直線と平面だけで構成される陳腐なモダニズム彫刻は、公共の場所にふさわしくないという芸術面からの批判と、大地に這い蹲

るような黒い石は、敗北という恥辱を表すもので、国民に不名誉や罪悪感を喚起させるという政治的な側面からの批判があった。リンのデザインの抽象性に反発した人々は、1984年、ベトナム戦没者記念碑の近くに、写実的な3人の兵士のブロンズ像を建立した。この像をデザインしたのは、モダニズム批判者のフレデリック・ハートであった¹⁷⁾。

写実的で力強い彫像は、慰霊碑のもう一つの主流である。戦没者が、「英雄」「烈士」と呼ばれるとき、写実的な彫像が作られる。戦闘服を着た兵士や負傷した兵士の像は、英雄崇拜を反映している。対立するように見える抽象的モニュメントと写実的モニュメントは、ベトナム戦没者記念碑の例のように、隣接することが多い。一つのモニュメントの建立は、別の新しいモニュメントの建立を招く。中国においては、モニュメントは単独で存在することはまれであり、簡素なモニュメントの周囲に、写実的なレリーフや彫像が並ぶのは、中国の烈士陵园の代表的な布置である。そして、そのモニュメントの意味を述べた碑文やその評価を記す数々のプレートが掲げられているのである。

第2節 モニュメントの分類

ケネス・E・フットは、アメリカのモニュメントを社会的機能に基づいて4つに分類した。第一は、重要な英雄や犠牲者を神聖化する聖別、第二は、第一の英雄や犠牲者ほど神聖ではないが、他とは区別するという選別、第三は、一時的に神聖化され、すぐに本来の状態に戻る復旧、第四は、記憶から完全に除去する抹消である。

聖別の場所の代表例としてフットは、ゲティスバーグ国立軍人墓地を挙げている。こうした場所の特徴は、他から切り離されていること、長期にわたって管理されること、私有から公的管理へ移行していること、持続的に顕彰行為が行われること、追加的なモニュメントが建立されることである。犠牲者たちは大義のために命を投げたことが明らかであるがゆえに、聖別の必要性をめぐる議論が生じる余地はないという。そして、こうした場所では特定の

宗教集団によって占有されることはない」と指摘している。選別の場所では、聖別の場所のように定期的な記念行事は行われない。1968年にマーティン・ルーサー・キング・ジュニア牧師が殺害されたテネシー州メンフィスのローレン・モートルに建てられたプレートがこの例である。事件の評価は時間とともに変化するため、選別は、神聖化と削除の間に存在するという。復旧の場所は、悲劇的な事故が起こった場所である。1871年のシカゴ大火の跡地や1920年のウォール街爆破事件の跡地などが、これに相当する。抹消の場所は、悪名高い事件が発生した場所である。例としてはセイラムの魔女狩り事件などがあるが、こうした事件そのものに関心を持つことがタブー視されているという特徴がある¹⁸⁾。

モニュメントの機能面に着目すれば、フットの分類は妥当なものである。一方、形態面に着目した分類も可能であると考えられる。先述したように、モニュメントの抽象性と具象性は形態面の差異であるが、それよりも大きな差異として、文字と造形という区別がある。文字が刻まれたモニュメント、すなわち、碑が多く残る中国の事例に則して、文字と造形による分類を試みると、中国のモニュメントは、碑・プレート・塔・人物像に分類できる。文字によってメッセージを伝えるものが碑とプレート、造形によってメッセージを伝えるものが像と塔である。多くの場合、碑やプレートには、石やコンクリート、金属など半永久的な素材に文字が刻まれる。

碑とプレートの区別は、前者が立体的、後者が平面的という形態面だけではなく、個別性の側面から考える必要がある。碑が唯一無二のものであるのに対して、プレートは個性性が低い。例えば、写真3は、中国遼寧省瀋陽の張氏帥府（張作霖・張学良の旧居）のプレートである。これは、省級文物保護単位（重要文化財）に指定された際に建てられた看板であるが、写真4のように各地に同じ形態の看板が存在する。典型的なプレートとしては、写真5のような愛国主義教育基地の指定のものが挙げられる。

人物像と塔にも文字が刻まれることがあるが、それはデザインを妨げない程度の存在に留まっている。像の場合、台座に人物名が刻まれ、側面か裏面

写真3 張氏帥府



写真4 雲山屯古建築群



に設計者の名前と建立年が刻まれる。写真6は、張氏帥府の前に建つ張学良の銅像であるが、台座に張学良將軍とあり、背面に小さく、張秉田という名前と2005年12月12日という日付が入っている。また、写真7は、上海の宋慶齡旧居に建つ宋慶齡の胸像であるが、名前と生存期間が記されているのみのシンプルなものであることがわかる。塔にも文字が刻まれるが、どこに

写真5 プレート



写真6 張学良像



写真7 宋慶齡旧居



どのように刻まれるかはデザイン次第である。写真8は上海の外灘(バンド)にある上海市人民英雄記念塔である。下部に「上海市人民英雄記念塔」と刻まれている。この塔の手前に「上海市人民英雄記念塔 建造大事記」という碑文があり、1950年、上海市の解放一周年を記念して上海市政府が記念塔の建設を決定し、1987年11月17日から計画が進み、1994年5月27日に落成を迎えたことが記されている。この塔の背後には外灘歴史記念館と革命の歴史を刻んだレリーフがある(写真9)。

中国でとりわけ多く建立されているのは、毛沢東像である。最初に建立されたのは、1967年、清華大学の構内であり、毛沢東の誕生日、12月26日に基づいて、12、26メートルの台座が作られた。以降、各地で白い毛沢東像が作られた(写真10)。台座には、「毛沢東、1893～1976」と刻まれているのみであるが、それは、像が毛沢東であることは自明のことなので、碑文が必要ないといえる。

毛沢東の他には、林彪を除く十大元帥¹⁹⁾、周恩来、孫文などの像がそれぞれの縁のある場所に建立されている。写真11は、上海の黄浦公園に建つ高さ5.6メートルの陳毅像で、視察を行っている際の姿が表現されている。

写真8 人民英雄記塔

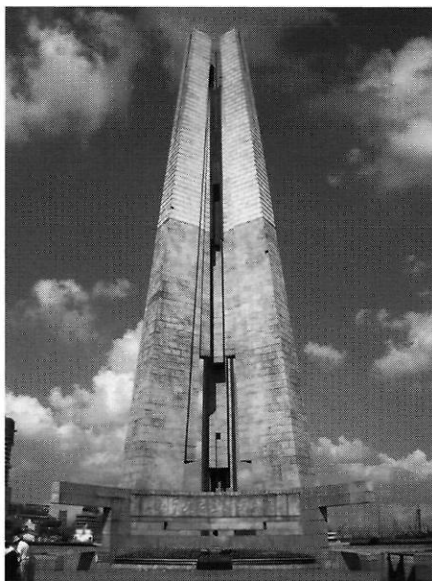


写真9 レリーフ

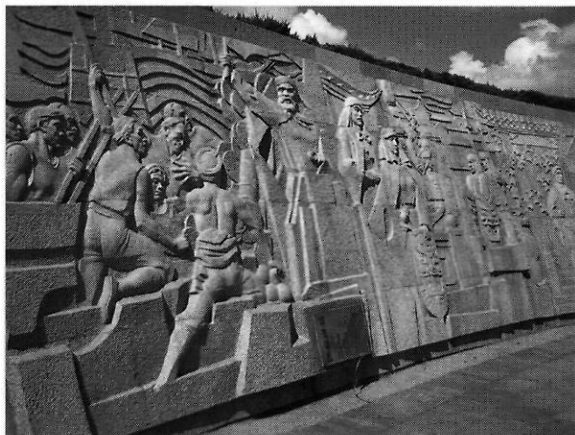


写真 10 毛沢東像



写真 11 陳毅像



陳毅は1949年から上海市長を務めた。また、陳毅の故郷である四川省樂至市には陳毅の生家と記念館があり、記念館の前にも高さ2.6メートルの陳毅像がある。毛沢東や十大元帥らは、生家・旧居・活動の場・墓地に像としてその姿を残すだけでなく、自らの字を各地に残している。それは、現在では、解放記念碑や革命記念碑、革命記念館、烈士陵园などの題字という形で保存されている。

第3章 烈士の顕彰

第1節 烈士陵园と烈士記念館

戦没者の追悼を行う戦争墓地は、近代国家にとって重要なモニュメントであった²⁰⁾。20世紀の中国において革命の犠牲者は革命烈士（烈士）、その墓地は烈士陵园と呼ばれている。革命烈士の称号は、1980年に公布された「革命烈士表彰条例」に基づいて与えられ、遺族は革命烈士家族と称され、革命烈士証明書が発行される。革命烈士の条件は、戦争で犠牲になった場合、戦争で受けた傷が原因で死亡した場合、前線で活動している最中に犠牲になった場合、任務遂行中に殺害された場合や逮捕・殺害された場合、人民救助や国家財産を守るために犠牲になった場合、後世の人々の模範になる場合が制定されている²¹⁾。烈士の名前は、烈士英名録（烈士名録）という名前のつくウェブサイトで公開されている。

烈士は、忠魂や忠烈という語に起源を持つ。これらは本来、官僚や官軍が戦死したときの補償措置の文書に登場する語であり、広い意味では命を犠牲にして主君に忠義を尽くすことであった。忠魂や忠烈が主君あるいは清朝に対する忠であるのに対して、烈士は国に対する忠である。個人的な感情レベルであった忠魂や忠烈が、国家レベルの追悼へと変化していった。その最初の一人が、譚嗣同（1865～1898）であった。梁啓超は、戊戌政変（1898年）の後、処刑された譚嗣同を最初の烈士として追悼した。亡命中であった梁啓超は、譚嗣同を愛国のために自己を犠牲にした烈士と称することで、戊戌政

変の死刑者を顕彰しようとした²²⁾。

これ以前、祖国のために犠牲になった人々の慰霊碑としては、遼寧省旅順の万忠墓がある。旅順には、日清戦争（甲午農民戦争）の犠牲者を祀った3つの万忠墓が立つ。最初に建立されたのは、1896年であるが、日露戦争後の1905年、碑文に書かれた「日本敗盟」という文字に不快感を示した日本軍が、この碑を持ち去った（写真12）。第二の碑は、1922年、旅順華商公議会在が修復した万忠墓であり、第三は、1948年、旅順市政府が修復したものである²³⁾。現在、「旅順万忠墓紀念館」となっているが、この題字は1994年に李鵬総理が揮毫した。

陵园とは、墓と公園が一体化したもので、広い土地を必要とするため、郊外に位置することが多い。烈士陵园は、虐殺が行われた場所に建てられることが多い。例えば、上海の除匯区にある龍華烈士陵园は、国民党が淞滬警備司令部として1927年に建設したもので、1927年から1937年の間、9000人

写真12 万忠墓



以上の共産党員が投獄され、800人ほどが処刑された場所である。特に、1931年2月7日に処刑された柔石、胡也頻、殷夫、李偉森、馮鏗ら左聯（中国左翼作家聯合）の成員5名は、「左聯五烈士」と呼ばれている。1950年、ここから多数の遺体が見つかり、烈士陵園の建設へとつながった。龍華烈士陵園は、記念館・碑園・広場・彫刻から構成される。烈士記念館の正面には、江沢民が揮毫した「丹心碧血為人民」（人民のための赤心と正義の血）という碑、その両側に「無名烈士」というタイトルの彫刻があり、記念館の裏側に墓がある（写真13）。

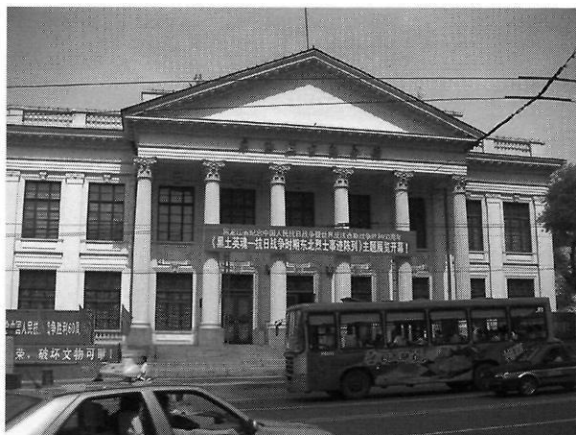
最も古い烈士陵園の一つは、広東省広州の黃花崗七十二烈士陵園である。1911年4月27日（旧暦3月27日）、孫文が率いた中国同盟会による武装蜂起で、犠牲になった72名の烈士を祀っている。1911年5月2日に遺体は埋葬されたが、記念碑などは作られていなかった。墓苑として完成するのは1921年であったという²⁴⁾。

烈士陵園とともに建設されたのは、烈士記念館と烈士記念碑である。最初の烈士記念館は、1947年、黒竜江省のハルビン市に建設された東北烈士記念館である（写真14）。この建物は、1928年、図書館として建設されたが、

写真13 龍華烈士陵園



写真 14 東北烈士記念館



1933 年、日本軍によってハルビン特別警察庁として占有された。抗日女性烈士として著名な趙一曼（1905～1936）は、ここで拷問を受けた。四川省宜賓出身の趙一曼は、21 歳で共産党に入党した後、上海などで工作員として活動した。1935 年、日本軍に捕まり、一度脱走したが、1936 年、再び捕虜となり、珠河县（現在の尚志市）で処刑された。記念館の近くにある小さな公園に、彼女の銅像が建てられているほか、一曼街など地名としても残っている（写真 15）。ハルビン解放後、東北烈士記念館は、烈士追悼の施設として 1948 年 10 月 10 日に一般公開された。趙一曼のほか、抗日戦争で活躍した李兆麟（1910～1946）や楊靖宇（1905～1940）、趙尚志（1908～1942）、解放戦争で活躍した朱瑞（1904～1948）や董存瑞（1929～1948）、楊子榮（1917～1947）などの写真があり、生い立ちや最期が紹介されている。

趙一曼のように、若くして劇的な最期を遂げた烈士は様々な形で顕彰される。楊靖宇が 1940 年 2 月 23 日、殉死した吉林省濛江県は、1946 年に靖宇県と改名された。死後、ホルマリン浸けにされた彼の頭部は長春の関東軍司令部で保存されていたが、後に運び出され、ハルビン東北烈士記念館に一時、安置された。そして、1957 年に改めて吉林省通化市に、楊靖宇烈士陵园に

写真15 趙一曼像



埋葬された。陵園内には、5.35メートルの像が建立され、台座には「民族英雄楊靖宇將軍」と彭真が揮毫した。楊靖宇の死後、日本軍が彼の胃の中を調べると、胃の中には樹皮と綿の実の繊維しか入っていなかったというエピソードは、楊靖宇を語る上で欠かせないものである。

また、朱瑞の墓は、ハルビン烈士陵園の中心に据えられている（写真16、写真17）。1948年5月25日、河北省承德市隆化県の戦闘で自爆した董存瑞の墓は、承德市隆化県に1954年に建てられた。1950年、董存瑞に全国戦闘英雄の称号が贈られた。「偵察英雄」と称される楊子榮の墓は、黒龍江省海林市に楊子榮烈士記念館として建てられた。彼は、1947年2月23日、海林市の匪賊討伐で、手が凍り付いて銃の打てなくなっているときに、匪賊に撃たれて死亡した。趙尚志の記念館は、趙一曼の記念館とともに、黒龍江省尚志市に建てられた。

1980年代以降始まる全国重点烈士記念建築物保護単位や愛国主義教育基地の指定で、毛沢東や周恩来、十大元帥などの著名人以外で個人名が用いられる烈士は少ない。楊靖宇や趙一曼、董存瑞などの他には、模範兵士の雷鋒（1940～1962）の記念館、15歳で死去した劉胡蘭（1940～1947）などの記念

写真 16 ハルビン烈士陵園



写真 17 朱瑞墓



館がある。雷鋒も劉胡蘭も若い死という共通項だけではなく、毛沢東が、1947年3月26日、劉胡蘭の死を「生きて偉大，死して光栄！」と称え、1963年5月3日、「雷鋒に学べ」と彼らの死を悼んだことでも共通する。

毛沢東の死後も、犠牲者への顕彰は続くものの、雷鋒や劉胡蘭のような若

い英雄はほとんど誕生していない。1980年代以降、個人への顕彰行為が急速に減少し、革命烈士という匿名の犠牲者を顕彰するようになってゆく。ここから、死者が烈士や英雄となるには、その死を劇的なものへと演出する大々的な仕掛けが必要であることがわかる。

第2節 英雄記念碑と解放記念碑

匿名化された烈士の最大規模のモニュメントは、北京の天安門広場の人民英雄記念碑である。これは、アヘン戦争から解放戦争までの間に犠牲になった烈士を祀るモニュメントであり、1949年9月30日、中国人民政治協商会議第一回会議において設置が決定された。午後6時、毛沢東が中心となって天安門広場で定礎式を行った。翌10月1日、毛沢東は天安門広場にて中華人民共和国中央人民政府の成立を宣言した。

1952年8月1日の工事着工までの間、モニュメントのデザインが吟味された。140ほどのデザインが寄せられた中で、決定していたことは、モニュメントは東西を広く、南北を狭くした直方体であること、正面となる南面には「人民英雄永垂不朽」という毛沢東の題字を刻むことであった。中国の宮殿建築と石碑の伝統に基づいて、南面が正面とされたが、工事着工から一年後、1953年11月から1954年8月の間にデザインの変更がなされ、北面が正面となった。この大きな変更の理由は、北京の主軸道路の変更にあるという。1911年の辛亥革命以前、外からの訪問者は永定門を通して正陽門、中華門を経て天安門へ至るという南から北へのルートを用いていた。1911年以降、天安門前の長安左門と長安右門から自由に出入りできるようになり、長安街が東西を貫く大通りとなった。1949年以後、正陽門箭楼と前門が閉じられたことで南北交通はさらに遮断された。長安街から見て正面は、モニュメントの北面であった²⁵⁾。

1952年に組織された人民英雄記念碑興建委員会では、北京市長の彭真(1902～1997)が主任に、鄭振鐸(1898～1958)と梁思成(1901～1972)が副主任に就任した。主な設計は梁思成が担当した。梁思成は、1924年から

1928年までアメリカに留学し、ペンシルバニア大学とハーバード大学で建築を学んだ。帰国後、中国古代建築の研究に携わり、1949年以降、清華大学建築系で教鞭をとる傍ら、北京市設計に関わった。西欧建築に造詣の深かった梁思成は、従来の碑碣建築の様式と近代都市におけるモニュメント建築をいかに融合させるかに注意を払った²⁶⁾。

寄せられたデザインは、平面に広がる箱型の建築と高く聳えるオベリスク建築の二つに大別された。最終的には後者が選ばれるが、そこには、天安門広場を遮ってしまわないようにという配慮と、天安門との美的調和という配慮があった。中国古来の碑碣建築と西洋建築の融合は、高く聳える白いオベリスク型のデザインに、毛沢東による題字を刻むというモニュメントを生み出した。それによってこれまで欠けていた英雄気概をモニュメントに加えることができたのである²⁷⁾。

デザイン面で最大の問題になったのは、碑頂の装飾であった。碑碣は、装飾が施される碑額あるいは碑頂、文字が刻まれる碑身、台座の碑座という3部分から成る。人民英雄記念碑の碑頂以下のデザイン、すなわち、碑身の正面（碑陽）に刻まされる毛沢東による「人民英雄永垂不朽」（人民英雄は永遠に不滅である）という題字、裏面（碑陰）刻まれる周恩来による碑文、台座部分の革命の歴史を物語るレリーフ、はすでに決まっていたものの、碑頂のデザインは工事着工以降も決まっていなかった。建築家たちは建築物を載せることを主張し、彫刻家たちは兵士の彫像を載せることを主張した。彫像案の支持者が建築案の支持者よりもやや上回ったものの、梁思成は廡殿頂（屋根型の碑頂）にこだわった。それは、西洋のモニュメント建築に多用される彫像ではなく、また古来の碑碣に多様される龍でもないデザインを求めたためであった。そして、彭真も、彫像を用いると主題があいまいになるとして、建築案を支持した²⁸⁾。

この論争から、人民英雄記念碑のメインはあくまでも毛沢東の「人民英雄永垂不朽」という題字であることを改めて確認することができる。先に述べたように、モニュメント建築において像と文字が並存することはまれである。

写真18は、瀋陽駅前広場のソ連赤軍戦死兵士記念碑である。また、写真19は、大連のスターリン広場（現在の人民広場）にソ連軍の銅像が建てられた。この銅像は、中央美術学院の盧鴻基によるデザインで、郭沫若が「永遠の名誉」と題字を記した。この二つは、ソ連赤軍兵士を顕彰するためのもので、彫像がメインになるという1950年代から60年代のモニュメントの特徴を示している。文字は刻まれているものの、彫像のメッセージ性を妨げないデザインになっている。

このように、ソ連の社会主義リアリズムは1950年代以降の中国のモニュメント建築に大きな影響を与えた²⁹⁾。スターリン文化の代表とされる社会主義リアリズム芸術は、1920年代に始まり、1953年のスターリンの死で終息するが、英雄像の模索は1918年から始まっていた。レーニンは、ツァーリズムを払拭させ、常に人々に革命を想起させるような革命英雄のモニュメントを作することを計画した。像を作るため、1922年までの間に183のモニュ

写真18 ソ連赤軍戦死兵士記念碑



写真19 ソ連紅軍記念碑



メントを建立させた。さらに、1935年から1940年の間には36のモニュメントが作られた。英雄像として選ばれたのは、労働者の代表である鍛冶屋であった³⁰⁾。

ギュンターは、スターリン時代の芸術における5つの構成要素を挙げている。それは、ハイパーリアリズム、モニュメンタル性、古典主義、民衆性、英雄主義である³¹⁾。これらは、烈士陵园や革命記念館などに建てられる人民英雄の彫像やレリーフの特徴にも当てはまる。力強く立つ人民英雄像は、自己犠牲的な献身を表現している。英雄像にとって最も重要なことは、「肉体的、精神的な力を研ぎ澄まし、イデオロギー上の課題に無条件に身を捧げることである」³²⁾。

記念塔や記念碑とレリーフの組み合わせは、人民英雄碑や上海市人民英雄記念塔に限らず広く見られるパターンである。人民英雄記念碑の四方には、エポックメイキングな出来事のレリーフが彫られている。北側(正面)には、「勝利渡長江、解放全中国」「支援前線」「歓迎解放軍」、東側には、「アヘン戦争」「金田起義」、西側には、「南昌起義」「抗日遊撃戦争」、南側には、「武昌起義」「五四運動」がある。1977年に計画され、2004年に完成した江西省南昌市の八一南昌起義記念碑にはモニュメントの周辺と、その前の広場にレリーフが施された(写真20)。広場に向かって南面している。左から時計周りに、「秋收起義」「八一起義」「井岡闘争」「紅都瑞金」「抗日戦争」「万里長征」「鋼鉄長城」「解放戦争」という、江西で起こった出来事を中心とした革命の歴史が綴られている(写真21)。こうしたレリーフは、革命の歴史を物語る。断片的に起こった出来事は、レリーフを通して一つのストーリーとなり、モニュメントが建立される必然性を示すことになる。

写真 20 八一起義記念塔



写真 21 井岡山レリーフ



第4章 近代モニュメントの変遷

第1節 重慶におけるモニュメント

ある場所が観光地として発展してゆく上で、どのような形であれ、モニュメントの存在条件である。観光地にとってモニュメントは必要不可欠であるが、全てのモニュメントのある場所が観光地になるわけではない。最初に述べたように、多くのモニュメントは、時間の経過とともに景観の一部となり忘れ去れてしまうのである。

歴史的に重要な場所であり、建物が修復されても特に目立つようなモニュメントが設置されないこともある。現在の中国で考えれば、蒋介石旧居など国民党にまつわる建物はデリケートな扱いを受けている。1990年代以降、これらは修復され、一般公開されているが、大きなモニュメントが建立されるケースはまれである。

1937年、南京が陥落すると、蒋介石率いる国民政府は、内陸都市、重慶への遷都を決定した。重慶が選ばれた理由は、内陸であるというだけではなく、「霧都」という名称を持つように霧が多く、空からの攻撃を受けにくいこともあった。蒋介石は重慶に4つの邸宅を構えたが、主に居住したのは、黄山の雲岫楼と歌楽山の中正楼であった（写真22）。

現在、雲岫楼が建つ黄山は、重慶市黄山幹部療養院となっている。雲岫楼の建物そのものは、1987年、重慶市人民政府によって文物保護単位に認定され、1993年、マーシャル旧居（草亭）とともに修復され、一般公開されるようになった。ただし、パッケージツアーに含まれることも、ガイドブックに記載されることもほとんどない。1994年、重慶市政府は、黄山に抗日戦争臨時首都博物館を建設することを計画し、2005年、重慶抗戦遺址博物館が完成した。

雲岫楼よりも先に重慶で一般公開されていたのは、歌楽山烈士陵园および白公館と、紅岩革命記念館である。

重慶市郊外の歌楽山には多くの邸宅が建った。1942年、歌楽山に白公館

監獄（国民党特務機関対保密局重慶看守所）と渣滓洞監獄（西南長官公署二処看守所），駐留アメリカ軍と共同で，日中戦争に関わる情報の交換を目的として，中美特種技術合作所（中国・アメリカ特殊技術養成所）を設立した（写真23）．国民党特務の訓練が行われる場所であり，楊虎城や黃頭声，『紅岩』の作者の一人である羅広斌，『紅岩』の登場する子供のモデルになった宋振中一家などが監禁された場所であった．多いときには，200人ほどが収容さ

写真 22 蒋介石故居



写真 23 白公館



れていた。渣滓洞には『紅岩』の江雪琴のモデルになった江竹筠などが収容された³³⁾。

ここは、本来、四川軍閥の白駒の別荘であった。白居易の号の香山をとって「香山別墅」という名称であったが、後に「白公館」と呼ばれるようになった。1949年9月17日、蒋介石は特務に白公館の楊虎城夫婦と秘書の宋綺雲夫婦を殺害させ、22日に重慶から昆明へと向かった。11月14日、特務は江竹筠ら30数名の共産党員を殺害した。27日、白公館と渣滓洞に投獄されていた35名の共産党員が脱出したが、他の200名ほどの共産党員は人民解放軍の進攻前に殺害された。11月30日、人民解放軍は、重慶解放を宣言し、抗戦勝利記功碑の頂に五星紅旗が掲げられた。

1950年1月15日、鄧小平や劉伯承ら1000名が追悼大会に参加し、236名が烈士として追悼された³⁴⁾。同年、楊虎城夫婦と宋綺雲夫婦は陝西省西安に埋葬され、その墓地は楊虎城烈士陵园となった。白公館と渣滓洞は1963年、一般公開された。1963年11月、烈士記念館が完成し、1964年、「重慶中美合作所集中營美蔣罪行展覽館」という名称が正式に採択された。文革終了後、歌樂山では、11月27日に追悼式典が行われるようになった。大規模だったのは、30周年であった1979年11月27日の式典であった。1983年11月27日、新たに42名が革命烈士の称号を与えられ、記念館で烈士の企画展が開かれた。これに際して、徐向前は、「革命烈士の遺志を受け継ぎ、共產主義実現のために闘おう！」という題字を残した³⁵⁾。

歌樂山は、1986年11月27日、歌樂山烈士陵园と正式に改名された（写真24）。このとき、鄧小平が「重慶歌樂山烈士陵园」と揮毫し、烈士をモチーフにした高さ11メートルのレリーフが掲げられた。レリーフは民間からの寄付によって作られたもので、四川美術学院の院長、葉毓山がデザインした³⁶⁾。葉毓山はこのほかに、四川省瀘定の紅軍飛奪瀘定橋記念碑や四川省松藩の紅軍長征記念碑などのデザインにも関わっている。

紅岩革命記念館のある場所は、もとは、嘉陵江南岸の沙坪壩紅岩嘴13号という地名であったが、中国共産党中央南方局と八路軍事務所が置かれてか

ら紅岩と呼ばれるようになった。現在の紅岩革命記念館は2001年に完成したものであるが、事務所跡地は、1955年、八路軍重慶弁事処記念館となり、1958年から一般公開されている。

また、桂园と周公館も比較的早い時期から公開されている（写真25）。1946年に重慶で開かれた政治協商会議に出席するために毛沢東が滞在したのが桂园、周恩来が滞在したのが曾家岩50号（通称、周公館）である。会

写真24 歌乐山烈士陵园



写真25 桂园プレート



議には、国民党8名、共産党7名、青年党7名、民主同盟2名、無党派と知識人の計37名が参加し、「和平建国綱領」「憲法草案」「国民大会案」などが採択された。会議の結果に不満を持った蒋介石は、1946年3月、会議の合意を修正し、国民党一党独裁体制を維持するための決議を採択した。国民党内部でも共産党や民主同盟への反発が強まり、国民党特務は1946年、李兆麟や民主同盟の聞一多などを暗殺した。1946年5月、国民政府は南京へ遷都し、同年7月から国共の内戦が全面化した。そして、1949年11月27日の白公館の虐殺へとつながるのである。

「解放碑」という地名は重慶の繁華街を意味する。文字通り重慶人民解放碑というモニュメントが立つが、高層ビルに囲まれた解放碑は、高く聳え立つモニュメントというよりも、待ち合わせ場所として親しまれている。解放碑は、もともと1940年3月12日、十字路に、孫文の命日を記念して建てられた「精神堡壘」というモニュメントであった。1938年から1943年までの5年半、のべ218回の空爆の被害にあったため、このモニュメントは爆破された。1945年、精神堡壘の跡地に「抗戦勝利記功碑」が建立され、1950年10月1日の国慶節において、「重慶人民解放紀念碑」と改名され、劉伯承がその題字を揮毫した。解放碑周辺は、北京の王府井や上海の南京路に先駆けて中国最初の商業歩行街（歩行者天国）となり、解放碑の周辺には大型デパートやホテル、ビジネスビルが立ち並び、重慶における商業の中心地となった。

黄山、紅岩、歌樂山、解放碑の4史跡のうち、黄山を除く3つの地点は、重慶一日ツアーの目的地に含まれている。一日ツアーは中国各都市で行われているが、重慶で本格的に整備されたのは2003年以降である。それまで重慶観光の中心を占めていた三峡ツアーが、三峡ダム建設に伴う水位上昇で下火になるのを懸念した重慶市旅游局が中心になって一日ツアーの企画を進めた。このとき提案されたのは、歌樂山や紅岩などの近現代史の史跡だけではなく、解放碑のショッピング街や長江大橋など重慶の経済発展を示すスポットもツアーの目的地に含めることであった。紅岩や歌樂山で革命精神を学んだ後、解放碑でショッピングと重慶グルメを楽しむ一日ツアーが実施された。

このような革命精神を学ぶ観光は、「紅色旅游」と呼ばれる。直訳すれば赤い観光となるが、意識すれば革命観光となる。延安や井岡山など1949年以前に革命根拠地となった場所を巡る観光がその代表であり、書店には「紅色旅游」「紅色之旅」などのタイトルで多数のガイドブックが販売されている。これらのガイドブックには、烈士陵园や記念館の由来と、そこに残る碑と揮毫者、場合によっては揮毫年についての解説がある。

第2節 紅色旅游と愛国主義

革命観光の目的地の多くは、愛国主義教育基地に指定されている。1997年、中国政府は全国に100箇所の愛国主義教育基地を制定した。その中には、各種の博物館、記念館、烈士記念館、革命戦争における重要な戦場を記念した施設、文化財、歴史遺跡、景勝地、二大文明に関わる遺跡、自然保護区などが含まれる。そして、学生が愛国主義教育の一環として博物館や記念館を訪問した際には入場無料とすること、自然保護区のガイドは、説明の中に愛国主義に関わる内容を取り入れることが規定されている³⁷⁾。

愛国主義教育基地として2001年に100箇所、2005年に66箇所が新たに加えられた。2001年は中国共産党創立80周年にあたり、中国共産党中央宣伝部は中国共産党の歴史を表す施設を重点的に愛国教育施設に加えた。第1回指定に、故宮や長城、周口店遺跡、孔子旧居、敦煌莫高窟など、中国共産党とは直接的な関係のないものが含まれていたのに対して、第2回と第3回指定では、中国共産党、八路軍と新四軍に関わる施設が増加した。

愛国主義教育基地の指定に先立って、革命記念館や烈士記念館の多くは、1961年から施行されている全国重点文物保護単位（重要文化財）と、1986年から施行されている全国重点烈士記念建築物保護単位の指定を受けている（表1、写真26）。

1995年に制定された「革命烈士記念建築物の管理保護規定」によると、この規定の目的は、革命烈士の輝かしい業績をしのび、革命烈士記念建築物の管理を強化し、愛国主義・国際主義・革命伝統の教育を行い、社会主

表1 全国重点烈士記念建築物保護単位

	名 称	落成 年	指 定 年
北 京	李大釗烈士陵园	1982 年	1986 年
	平西抗日烈士陵园	1985 年	1996 年
天 津	盤山烈士陵园	1956 年	1989 年
河 北	晋冀魯豫烈士陵园	1946 年	1986 年
	華北軍区烈士陵园	1954 年	1986 年
	狼牙山五勇士記念館	1942 年	1986 年
	董存瑞烈士陵园	1955 年	1986 年
	冀南烈士陵园	1946 年	1989 年
山 西	冀東烈士陵园	1955 年	1989 年
	太行太岳烈士陵园	1952 年	1986 年
	劉胡蘭記念館	1957 年	1986 年
	晋綏烈士記念館	1953 年	1989 年
	臨汾烈士記念館	1958 年	2001 年
内 蒙 古	大青山革命英雄記念碑	1986 年	1986 年
	内蒙古革命烈士陵园	1949 年	2001 年
	ウランホト市烈士陵园	1949 年	2001 年
遼 寧	遼沈戦役烈士陵园	1959 年	1986 年
	抗美援朝烈士陵园	1951 年	1986 年
	雷鋒記念館	1964 年	1986 年
吉 林	楊靖宇烈士陵园	1958 年	1986 年
	四平市烈士陵园	1974 年	1989 年
	四保臨江烈士陵园	1947 年	1989 年
	延辺烈士陵园	1992 年	1996 年
	吉林市烈士陵园	不明	2001 年
黒 龍 江	饒河抗日游撃部隊記念碑	1986 年	1986 年
	ハルビン烈士陵园	1948 年	1986 年
	“八女投江” 烈士群彫	1986 年	1989 年
	西満烈士陵园	1948 年	1996 年
	楊子榮烈士陵园	1970 年	2001 年
	珍宝島革命烈士陵园	1969 年	2001 年
上 海	上海市華龍烈士陵园	1966 年	1989 年
江 蘇	淮海戦役烈士記念塔	1965 年	1986 年
	抗日山烈士陵园	1944 年	1989 年

	常州烈士陵园	1978 年	1996 年
	鎮江市烈士陵园	1966 年	2001 年
浙 江	浙江革命烈士纪念馆	1985 年	1992 年 ⁽¹⁾
	四明山革命烈士陵园	1951 年	1989 年
	解放一江山岛烈士陵园	1956 年	1996 年
	温州革命烈士纪念馆	1956 年	2001 年
安 徽	皖西烈士陵园	1953 年	1989 年
	安徽革命烈士事迹陈列馆	1976 年	1989 年
	皖南事变烈士纪念馆	1990 年	1990 年 ⁽²⁾
	金寨烈士陵园	1964 年	1996 年
福 建	瞿秋白烈士纪念碑	1952 年	1986 年
	閩西革命烈士陵园	1955 年	1989 年
	林祥謙烈士陵园	1964 年	1989 年
	閩中革命烈士陵园	不明	2001 年
江 西	紅軍烈士紀念塔	1933 年	1986 年
	井岡山革命烈士紀念塔	1952 年	1986 年
	江西省革命烈士紀念堂	1953 年	1986 年
	方志敏紀念館	1977 年	1986 年
	茅家嶺烈士陵园	1955 年	1989 年
	興国県烈士陵园	1950 年	1996 年
山 東	華東革命烈士陵园	1949 年	1986 年
	濟南革命烈士陵园	1948 年	1989 年
	膠東革命烈士陵园	1945 年	1989 年
	孟良 戰役烈士陵园	1954 年	1989 年
	青島市革命烈士紀念館	1981 年	1992 年 ⁽³⁾
	羊山革命烈士陵园	1952 年	2001 年
	湖西革命烈士陵园	1945 年	2001 年
	萊蕪戰役紀念館	1997 年	2001 年
河 南	竹溝革命烈士陵园	1958 年	1986 年
	鄂豫皖ソビエト区革命烈士陵园	1957 年	1989 年
	焦裕禄烈士陵园	1966 年	1992 年 ⁽⁴⁾
	鄭州烈士陵园	1955 年	1996 年
	淮海戰役烈士陵园	1981 年	1996 年
	開封市烈士陵园	不明	2001 年
湖 北	湘鄂西ソビエト区革命烈士陵园	1978 年	1986 年
	鄂豫边区革命烈士陵园	1979 年	1986 年

	黄麻峰起・鄂豫皖ソビエト区革命烈士陵園	1956 年	1989 年
	湘鄂贛辺区鄂東南革命烈士陵園	1980 年	1989 年
	向警予烈士陵園	不明	1989 年
	施洋烈士陵園	1978 年	1989 年
	湘鄂辺ソビエト区革命烈士陵園	1953 年	2001 年
湖 南	湖南烈士公園	1951 年	1989 年
	韶山烈士陵園	1993 年	1996 年
広 東	広州起義烈士陵園	1957 年	1986 年
	海豊県烈士陵園	1962 年	1989 年
	十九路軍淞滬抗日陣亡将士陵園	1933 年	1989 年
	八一起義軍三河壩戦役烈士記念館	1963 年	2001 年
広 西	広西壮族自治区烈士陵園	1974 年	1986 年
	東蘭烈士陵園	1951 年	1986 年
	百色起義烈士碑園	1961 年	1989 年
	突破湘江烈士記念碑園	1995 年	1989 年
海 南	六連嶺烈士記念碑陣亡将士陵園	1961 年	1989 年
	李碩助烈士記念亭	1986 年	1989 年
四 川	自貢市烈士陵園	1984 年	1986 年
	王坪烈士陵園	1934 年	1989 年
	南充烈士陵園	1994 年	2001 年
重 慶	張自忠烈士陵園	1942 年	1986 年
	邱少雲烈士記念館	1962 年	1996 年
	楊暗公烈士陵園	1957 年	1996 年
	万州革命烈士陵園	1998 年	2001 年
雲 南	扎西紅軍烈士陵園	1978 年	1996 年
	屏辺烈士陵園	1970 年	1996 年
チベット	山南烈士陵園	1965 年	1989 年
陝 西	四八烈士陵園	1957 年	1986 年
	劉志丹烈士陵園	1940 年	1986 年
	子長革命烈士陵園	1943 年	1989 年
	楊虎城烈士陵園	1950 年	1989 年
	永豊革命烈士陵園	不明	2001 年
寧 夏	任山河烈士陵園	1955 年	1996 年
甘 肅	蘭州市烈士陵園	1952 年	1989 年

	高台烈士陵園	1957 年	1989 年
青 海	西寧市烈士陵園	1954 年	1989 年
新 疆	ウルムチ革命烈士陵園	1956 年	1986 年
	伊寧烈士陵園	1954 年	1989 年
	伊吾県烈士陵園	1979 年	2001 年
貴 州	遵義紅軍烈士陵園	1958 年	1986 年
	畢節市烈士陵園	1956 年	2001 年
計	110		

(注) ① 杭州市指定, ② 涇県指定, ③ 青島市指定, ④ 蘭考市指定

(出所) hyyp://www. fsou. com, http://www. chinaaeedu. com, http://www. shuangyong. gov. cn より作成.

写真 26 全国重点烈士記念建築物保護単位



義精神の文明の建設を促進することにあるという。ここでいう革命烈士記念建築物とは、烈士陵園・記念館・記念堂・記念碑・記念等・記念彫像などである³⁸⁾。

2004 年 12 月, 「2004~2010 年全国革命観光の発展についての計画要綱」が公布された。この要綱では, 愛国主義教育基地を革命観光の重要地点とすること, 12 の重点的革命観光区・30 の革命観光ルート・100 の革命観光スポットを作ること, 観光歴史文化を発掘し, 整理・保護・展示・宣伝すること,

革命観光を産業化し、2010年までに革命観光の総収入を1000億元にすることが盛り込まれている。革命観光に含まれるのは、中国共産党と人民軍隊の創建、革命根拠地の確立、長征、抗日戦争、解放戦争などの重要な出来事が起こった場所であることが規定されているほか、民族独立・人民解放のために犠牲を恐れず、勇敢に奮闘した革命烈士を顕彰することが述べられている³⁹⁾。

この12の革命観光区の指定に基づいて、革命観光を紹介するウェブサイトが立ち上げられ、ガイドブックも多数出版された。そして、旅行会社は、革命聖地として広く知られる延安や井冈山、遵義などへの2泊3日のツアーを相次いで企画している。ただし、2泊3日の革命観光といっても、革命に関わる施設だけを巡るわけではなく、他の観光地と合わせたツアーとなっている。特に、国民党の勢力を避けるように築かれた井冈山や遵義などの革命聖地は、自然が残る場所に位置するため、実際にはエコツアーと革命観光を組み合わせたものが多い。

写真5のように、全国重点文物保護単位、全国重点烈士記念建築物保護単位、愛国主義教育基地、重点的革命観光区に指定される度に、プレートは増加していった。

第5章 題字と揮毫

19世紀のヨーロッパの記念像ブームと、20世紀の中国の記念碑ブームには、国家の正統性を示すという点で共通性がある。両者の大きな違いは、何を通してメッセージを配信するかという媒体である。欧米では像（人物・造形）を、後者は碑（文字）という形態を選択している。中国の碑において最も重要なものは、題字である。常に、誰が、何と揮毫したかが問われる。碑には文字と同時に揮毫者の名前が記される。場合によっては揮毫した年も記される。揮毫する行為は新聞やテレビで報道され、文字は活字化されることなく、石に刻まれる。毛沢東の「人民英雄永垂不朽」という題字は、20倍に引き伸ばされて、人民英雄記念碑に刻まれ、モニュメントのメインとなっ

たのである。

中国の近代モニュメントの題字には、主に3つの種類ある。第一には、解放碑や革命記念館のように碑の名称を揮毫するもの（写真27）、第二には、「永垂不朽」や「浩気長存」のような文字を揮毫するもの（写真28）、第三は、

写真 27 紅軍渡江記念碑



写真 28 井岡山烈士墓



詩を記すものである。3つは個別ではなく、正門の題字、中庭や記念館に掲げられる題字、記念館や烈士陵园に付随する碑園にある碑の数々のように、まとまりを持った形で存在する。

第二の種類の題字で典型的な言葉は、「永垂不朽」（永遠に不滅である）、「浩気長存」（浩然の気は永遠に不滅である）の二つである。「浩気長存」は、黃花崗七十二烈士陵园に孫文が揮毫した言葉であり、「永垂不朽」は人民英雄記念碑に毛沢東が揮毫した言葉である。

3種類の題字に共通するのは、揮毫者の名前が横に記されることである（写真29、写真30）。縦書きであれば左下に、横書きであれば右下に刻まれる。揮毫者の名前が正面に刻まれるのに対して、追悼される烈士の名前は側面か裏面に刻まれることが多い。モニュメントの前に立った人々は、烈士という言葉で匿名化された犠牲者と揮毫した人物の個人名を見る。記念写真には、烈士という言葉と、毛沢東や鄧小平、江沢民などの名前が写される。結局、

写真 29 西双版纳解放碑



写真 30 東北解放記念碑



後世に残るのは、追悼される人物よりも揮毫者であることがわかる。

揮毫者は、毛沢東、十大元帥、八大元老⁴⁰⁾などが多数を占める。特に、毛沢東と十大元帥は、1940年代から60年代にかけて題字を記し、八大元老は1980年代から90年代にかけて題字を記した。題字を揮毫するのは、第一線で活躍している時期であるため、揮毫したことは、ニュースとして新聞やテレビで繰り返し報道される。

モニュメントの建立において、揮毫は重要な行為であるが、中国において、ここまで揮毫にこだわるのはなぜだろうか。アルファベットが表音文字で、漢字が表意文字だから、東アジアでは文字に重要な意味が込められる、という説明も可能であろう。しかし、題字のほとんどがタイトルや「永垂不朽」「浩気長存」などの紋切り型であることを考慮に入れると、題字の内容にとりわけ特別な意味があるとは考えにくい。碑碣の題字のほうが、書体においても内容においても、バリエーションは豊富である。そして、碑碣の文字は、ある程度の書道のたしなみがある人々、すなわち、知識人ではないと、正確に理解することはできない。

近代モニュメントは、知識人に独占されていた書の芸術を大衆化した点に

特徴がある。殷双喜は、人民英雄記念碑の特徴の一つとして大衆性を挙げた。人民英雄記念碑は、調和や秩序を重んじる古典的な碑碣の芸術性を残しつつ、人民英雄の顕彰というテーマを誰が見てもわかるような形で表現しているのである。

1950年代から60年代におけるプロパガンダ芸術のほとんどが現在では廃れてしまったにも関わらず、碑が今もなお人々の関心をひきつけている理由は、書の芸術性にある。石に刻みこまれた文字は、揮毫者の個性を強烈に表現しているのである。

付記

本研究は、平成19年度科学研究費補助金若手研究B「現代中国の観光における漢字イデオロギーに関する人類学的研究」(代表：高山陽子)による成果の一部である。

【注】

- 1) 記念は、中国語で「紀念」、記念館は「紀念館」、記念塔は「紀念塔」であるが、本稿では題字の引用を除いてすべて「記念」と記す。
- 2) 石刻には、磨崖碑・碑碣・墓碑・墓誌・題記などの種類がある。岸壁の自然石に刻まれたものが磨崖碑で、個人の功績を顕彰するために作られたものが多い。直方体をした石刻を碑、自然石に近い形をしたものが碣と呼ぶが、厳密に使い分けられてきたわけではないという。墓碑の起源は二つあるとされる。第一は、祭祀の際に連れてきた犠牲をつないでおくための石の柱に文字を刻むようになったこと、第二は、棺を地中に下ろす際に支柱とする石の柱であるというものである。墓誌は、棺の前か地下の墓道に置かれた碑であり、5世紀以降に急増した。富谷至『木簡・竹簡の語る中国古代一書記の文化史』岩波書店、2003年、17～51ページ。
石川九楊は、木簡の書に比べて磨崖・碑碣の書の表現性(芸術性)が高い理由を、石に刻む上での苦闘にあると述べている。特に、現在でも魅力ある書体として人気のある八分体(隸書)は、竹簡や木簡の上に誕生した隸書体を石にふさわしい書体へと完成されたものであるという。石川九楊『中国書史』京都大学学術出版社、1996年、80～89ページ。
- 3) 王曉葵「20世紀中国の記念碑文化—広州の革命記念碑を中心に」若尾祐司・羽賀祥二(編)『記録と記憶の比較文化史—史誌・記念碑・郷土』名古屋大学

出版会, 2005年, 237ページ.

- 4) 阿部安成・小関隆・見市雅俊・光永雅明・森村敏己(編)『記憶のかたち—コメモレイションの文化史』(1999年), 若尾祐司・羽賀祥二(編)『記録と記憶の比較文化史—史誌・記念碑・郷土』(2005年), 森村敏己(編)『視覚表象と集合的記憶—歴史・現在・戦争』(2006年)などがある. これらの論集には, 欧米(イギリス, フランス, ドイツ, アメリカ)と東アジア(日本, 中国, 韓国)の事例研究が収められている.
- 5) モーリス・アルヴァックス『集合的記憶』行路社, 1989年.
- 6) アルヴァックス, 前掲, 157ページ.
- 7) ピエール・ノラ(編)『記憶の場—フランス国民意識の文化・社会史』1~3巻, 岩波書店, 2002~2003年.
- 8) ノラ「序論」ノラ(編), 前掲, 2002年, 31ページ.
- 9) ノラ, 前掲, 30~33ページ.
- 10) ジューン・ハーグローブ「パリの彫像」ノラ(編), 前掲, 第3巻, 2003年.
- 11) ハーグローブ, 前掲, 225~234ページ.
- 12) ハーグローブ, 前掲, 242~252ページ.
- 13) 大原まゆみ『ドイツの国民記念碑 1813年~1913年—解放戦争からドイツ帝国の終焉まで』東信堂, 2003年, 6ページ.
- 14) 大原, 前掲, 15ページ.
- 15) 小島崇「近代イギリスにおける戦争の記念・顕彰行為—対仏戦争~第一次世界大戦の記念碑」若尾・羽賀(編)前掲, 220ページ.
- 16) イアン・ブルマによると, 第二次世界大戦後に作られた慰霊碑は, 自己犠牲を称えたり, 戦争をロマンチックに美化することはなくなったという. かつて頻繁に用いられていた王と国家の十字架を持つキリスト教の騎士のイメージは使われることはなくなった. イアン・ブルマ『戦争の記憶』ちくま学術文庫, 2003年, 363ページ.
- 17) ジョン・ボドナー『鎮魂と祝祭のアメリカ—歴史の記憶と愛国主義』青木書店, 1997年. マリタ・スターケン『アメリカという記憶—ベトナム戦争, エイズ, 記念碑的表象』未来社, 2004年.
- 18) ケネス・E・フット『記念碑の語るアメリカ—暴力と追悼の風景』名古屋大学出版社, 2002年.
- 19) 元帥は1955年に贈られた人民解放軍の最上位の階級. 10名は以下の通り. 朱徳(1806~1976. 四川省儀隴県出身. 人民解放軍総司令, 中華人民共和国副主席), 彭徳懷(1898~1974. 湖南省湘潭県出身. 人民志願軍司令員), 林彪(1906~1971. 湖北省黄冈県出身. 1971年, モンゴルへ逃亡する際, 墜落死する), 劉伯承(1892~1986. 四川省開県出身. 中国共産党中央軍委副主席), 賀龍(1898~1969. 湖南省桑植県出身. 國務院副総理・体育運動委員会主任), 陳毅(1901~1972. 四川省楽至県出身. 華東軍区司令員・上海市長・外交部部長), 羅榮桓(1902~1963. 湖南省衡山県出身. 人民革命軍事委員会副主席), 徐向前(1901

- ～1990. 山西省五台县出身. 国防部部長), 聶榮臻 (1899～1992. 四川省江津県出身. 北京市長・国防科委主任), 葉劍英 (1897～1986. 広東省梅県出身. 人民解放軍参謀長・北平市長・広東軍区司令員・国防部部長).
- 20) ジョージ・E・モッセ『英霊一創られた世界大戦の記憶』柏書房, 2002 年.
 - 21) 国務院公布 1980 年 6 月 4 日公布「革命烈士褒揚条」
(<http://www.saxmz.gov.cn/law/law-072.htm>)
 - 22) 吉澤誠一郎『愛国主義の創成—ナショナリズムから近代中国をみる』2003 年, 157～185 ページ. 譚嗣同は, 西太后に弾圧された「戊戌六君子」(譚嗣同, 林旭, 楊銳, 楊深秀, 劉光第, 康廣仁) の一人である.
真鍋祐子は, 1970 年代の韓国の民衆運動においてどのように「烈士」が誕生したかを論じている. 最初の烈士は, 1970 年 11 月 13 日, ソウルで労働者の生存権を訴える示威の場面で焼身自殺を遂げた全泰壹である. 彼以前, 権力の不当な力によって死んだ者は「三千軍兵」という集合名詞で呼ばれていたという. 両者の違いは, 烈士がことのほか「恨」を強くもって死んでいったことにあると真鍋は説明する. 真鍋祐子『烈士の誕生—韓国の民衆運動における恨の力学』平河出版社, 1997 年, 42～46 ページ.
 - 23) 金基楨『中国碑文化』重慶出版社, 2002 年, 1245～1246 ページ.
 - 24) 王, 前掲, 241～243 ページ.
 - 25) 殷双喜『永恒的象徵—人民英雄紀念碑研究』河北美術出版社, 2006 年, 44～49 ページ.
 - 26) 従来の碑碣と近代モニュメントの違いについては, 金, 前掲が詳しい. この研究では, 「伝統碑」「古代碑」と「当代碑」「現代碑」と二つを分け, それぞれ, 形態 (一定/多様)・規模 (小/大)・素材 (石材/多様)・制限 (あり/なし)・数 (単体/複数)・テーマ (複合的/一貫的)・芸術性 (書法重視/象徴性重視)・公私 (私的/公的) という点から違いを説明している. 多少の例外はあるものの, 概ね妥当な分類である.
 - 27) 殷, 前掲, 51～55 ページ.
 - 28) 殷, 前掲, 103～105 ページ.
 - 29) 牧陽一・松浦恆雄・川田進『中国のプロパガンダ芸術—毛沢東様式に見る革命の記憶』岩波書店, 2000 年, 143～144 ページ.
 - 30) Bonnell, Victoria E *Iconography of Power: Soviet Political Posters under Lenin and Stalin*. University California Press. 1997 年, 21～23 ページ.
 - 31) ハンス・ギュンター「総合芸術としての全体主義国家」『思想』952, 2003 年, 83～96 ページ. グロイス, ボリス『全体芸術様式スターリン』現代思潮新社, 2000 年.
 - 32) ギュンター, 前掲, 94～95 ページ.
 - 33) 羅広斌と楊益言は, 『紅岩』(1961 年) という小説において, 1948 年から 1949 年 11 月 30 日の重慶解放までを描いた.
 - 34) 『四川日報』1984 年 11 月 26 日

- 35) 『四川日報』1983年11月28日
- 36) 『四川日報』1986年11月28日
- 37) 高山陽子『民族の幻影—中国民族観光の行方』東北大学出版会, 2007年, 32～40ページ.
- 38) 中華人民共和國民政部1995年7月20日公布「革命烈士紀念建築物管理保護弁法」(<http://www.fsuo.com/html/text/chl/138/13821.html>)
- 39) 「我国發布全国紅色旅游發展規劃要綱」新華網2005年2月25日 (<http://www.china.org.cn/chinese/PI-c/792908.htm>)
- 40) 八大元老のメンバーは決まっているわけではないが、主に以下の8名を指す。鄧小平(1904～1997. 中央軍事委員会主席), 陳雲(1905～1996. 國務院副総理), 楊尚昆(1907～1998. 国家主席), 薄一波(1908～2007. 國務院副総理), 彭真(1902～1997. 全国人民代表大会常務委員会委員長), 李先念(1909～1992. 国家主席), 王震(1908～1993. 国家副主席), 鄧穎超(1904～1992. 全国人民政治協商会議主席). 1990年代以降, 李先念, 彭真, 王震に代わって, 宋任窮(1909～2005), 万里(1916～), 習仲勲(1913～2002)を入れることもある.

Meaning of the Script: Modern Monuments in China

Yoko Takayama

The purpose of this paper is to analyze the relationship between politics and aesthetics in modern Chinese monuments. Compared to western monuments, which represent their themes through three-dimensional art, script has historically been the center of Chinese monuments because calligraphy was considered a sophisticated art for intellectuals in imperial China. Many modern Chinese designers, however, have struggled to harmonize Chinese calligraphy with European statuary in monuments since the introduction of western sculpture.

Furthermore, another question is which heroic martyrs have been commemorated. Geming-lieshi, martyr of the revolution, is the title given to dead soldiers meeting a certain condition set by the government. The mania for hero worship following the expansion of socialism after 1949 gradually faded away, and in its place public attention became centered on the commemorator, often a prestigious politician. People standing in front of a monument would find an anonymous Geming-lieshi and a commemorator's name eternally inscribed on the same stone, and realize that authorized history began with the glorious death of the Geming-lieshi.